

[宮寄晃臣によるコメント

— 総合司会の Lim Sang Hyuk 教授から総括のコメントを求められて —]

今日の討論をもう一度確認して、今後どういことを議論すべきか、確認したいと思います。田中先生のご報告で、FRB の信用緩和が金融システムの安定に功を奏しているということについて、金融恐慌を防いだ点ではそのとおりだと考えられます。しかしながら、田中先生のご指摘のように FRB の資産内容はかなり劣化しています。リーマンショック前は 9500 億ドルで、そこから現在は 2 兆 2500 億ドルにまで資産が膨張しています。しかもその半分ぐらいが MBS の不良資産によって占められています。ということは民間のリスクを FRB が引き受けた形をとっていて、こういった事態をどのように見ればよいのか？ またリーマンショックをどのように歴史的に位置付ければよいのか？ こういったところに留意する必要があると思われる。

おそらくグローバル化は今後も続いていきましょう。しかし、アメリカ主導のグローバル化ということについては、ひつつの限界が画されたのではないかと考えられます。別の覇権国家が登場するか、あるいは多極化するかは現在のところわかりません。しかし、日本についても、韓国についても一つには内需をもっと掘り起こしていかなければならない。あともう一つには地理的に考えても、東アジアでどのような協力関係をどのように作っていくべきか？ これらのことを念頭にこれからも研究会を続けていきたいと思っています。僕は危機はまだ去っていないと考えています。ですから余計にこの協力関係をどのようにつくっていくべきかという問題が大切なことだと考えられます。以上です。